

## 1. 豊島廃棄物等処理事業の受け入れ

土庄町豊島に不法投棄された産業廃棄物等を直島町で中間処理するという内容の「豊島産業廃棄物等直島処理方針」の受け入れに向け、濱田氏は強力なリーダーシップのもと町民や利害関係者との調整や丁寧な説明を重ね、平成12年3月に同方針の受け入れ表明に至り、豊島産廃問題の解決に大きく貢献しました。

これを契機に町では、平成14年3月に国からエコタウン事業の承認を受け「エコアイランドなおしまプラン」を策定し、リサイクル産業の創出を図りました。

また、自然・文化・環境が調和したまちづくりを進め、21世紀の循環型社会を先導する島として全国各地にその取り組みを提案するなど様々な分野で事業展開を行い、直島町を「環境のまち・直島」として発展させた礎をつくるなど、実に多大なる功績を残しました。



香川県直島環境センター

現在もこのプランに基づき、新たな環境産業を創出（ハード事業）するとともに、環境と調和したまちづくり（ソフト事業）を行っています。

### ○ ハード事業

三菱マテリアル(株)直島製錬所では、豊島廃棄物の処理施設や市町のごみ処理施設などから発生する溶融飛灰のほか、廃棄された家電製品や自動車のシュレッダーダストなどの廃棄物を原料として、金・銀・銅・鉛・亜鉛などの貴重な金属を回収しています。溶融飛灰再資源化施設（塩素分離処理）と有価金属リサイクル施設（焼却・溶融処理）の2施設で無害化处理しています。また、熱回収を行い発電に利用しています。



三菱マテリアル株式会社直島製錬所  
有価金属リサイクル施設

○ ソフト事業

町民や事業者、行政が協力して、ごみ減量化や緑化に取り組むほか、環境フェスタやワークショップを開催するなど、環境教育・環境学習の場をつくることにより、多くの人々に訪れていただき、地域の活性化を図っています。

① 住民主体の環境調和型まちづくり事業（ういらぶなおしま）

- (1) エコTシャツプロジェクト（エコTシャツアート展の開催）
- (2) 情報発信・交流プロジェクト（HP運営、サポートメンバーとの交流など）
- (3) 自然探検プロジェクト（自然探検隊、ウミホテル観察など）

② 環境教育・環境学習のフィールドづくり事業

- (1) なおしま環の里創生プロジェクト
- (2) スラグ陶芸体験工房
- (3) まちの案内所での窓口業務（直島町観光協会に委託）
- (4) 「環境のまち・直島」情報発信事業（小学校との環境教育連携、球根配付、環境フェスタの実施など）



エコTシャツプロジェクト  
（エコTシャツアート展）



自然探検プロジェクト  
（自然探検隊、ウミホテル観察）



環の里創生プロジェクト  
（ひまわり栽培）



スラグ陶芸体験工房

## 2. 観光に関する功績

観光振興の面では、平成15年には年間6万人に満たなかった観光客が、10年後の平成25年には年間70万人を超えるほどにまで急増するなど、観光事業を大きく発展させました。

当町を訪れる観光客は（公財）福武財団や㈱ベネッセホールディングス等が行うアート活動によって年々増加傾向をたどり、まちの活性化が急速に進んだ反面、受け入れ体制の整備が早急な課題となりました。

濱田氏は、早い時期からこの状況を察知し、受入体制の整備の必要性を提唱、平成15年4月に観光協会を設立させ、さらに平成20年にはNPO法人に移行し、物産販売・町営バスの運行受託などにより、観光協会の黒字化を達成しました。

現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」では、地元自治体として民間企業と献身的に協働し、瀬戸内海や島々の魅力を発信したことで「環境とアートのまち・直島」の知名度が急速に高まり、日本はもとより世界中から注目される存在となりました。

以降、平成23年5月までNPO法人直島町観光協会の会長として、積極的に直島町の魅力を情報発信するとともに、まちおこし資源や人材の発掘・育成など地域振興に関する活動を通じて、交流人口の増大や観光客の誘客促進を図り、魅力あるまちづくりの推進に寄与するなど、多大なる功績を残しました。

現在も、観光協会が中心となって、観光客の受け入れやPR活動のほか、特産品の開発・販売事業を行っています。

### ○ 観光客の受け入れ

#### ① 観光資源に乏しい玄関口・宮浦港周辺（西エリア）のアート施設の誘致整備

- (1) 宮浦港・赤かぼちゃ・直島パヴィリオン
- (2) 直島銭湯「I♥湯（アイラヴユ）」・宮浦ギャラリー六区



草間彌生「赤かぼちゃ」2006年 直島・宮浦港緑地  
写真/青地 大輔



「直島パヴィリオン」所有者：直島町  
設計：藤本壮介建築設計事務所 写真/福田 ジン



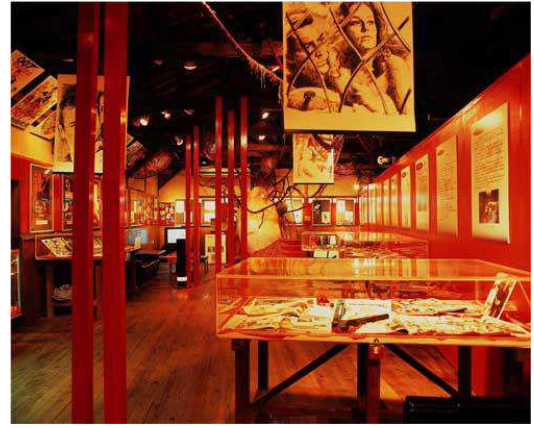
直島銭湯「I♥湯」写真/渡邊 修



「宮浦ギャラリー六区」写真/高橋 公人

② 観光協会の設立・運営

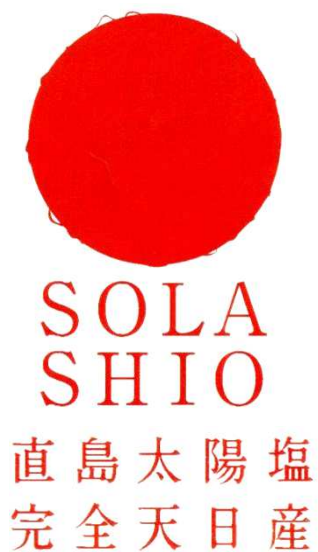
- (1) 窓口業務・物産販売業務の開設
- (2) 町営バス事業受託による運行効率化
- (3) 地元住民の雇用の場を創出
- (4) 「007赤い刺青の男記念館」の設置及び誘致活動等



○ 特産品開発・販売

① 特産品開発

- (1) 完全天日干しの塩「SOLASHIO（ソラシオ）」の開発・販売
- (2) 金箔入り焼酎「直島」の開発・販売



### 3. 交通に関する功績

#### ○ 離島在住者の交通確保

平成14年3月にスクールボート「あさかぜ」を新造し、直島本島以外の有人島（屏風島）に住んでいる子どもたちのための通学手段を確保しました。その後、救急患者搬送艇として活用するなど町民の利便性を向上させました。

#### ○ 町営バスの運行整備

町内の民間会社が撤退したことにより、高齢者などの交通弱者の交通手段が危機的な状況となった中で、陸上交通の基幹となる路線バスを維持存続させるため、関係機関と調整を重ね、平成14年7月に町営バスの運行を開始させました。この運行により、町民の日常生活における足となる陸上交通を確保し、さらにその後も利用者の声に耳を傾けながら充実を図りました。



#### ○ 宮浦港ターミナル施設の整備

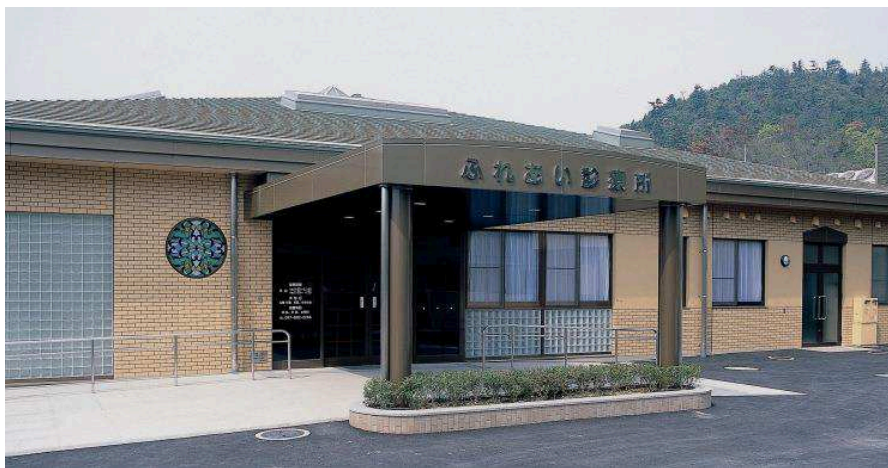
平成18年10月には、町の玄関口である宮浦港に海の駅「なおしま」を完成させ海上交通の主要ターミナルとして利用者の利便性を図り、年々増加する観光客の重要な受け皿としての施設整備に精励しました。



#### 4. 医療に関する功績

##### ○ 町立診療所の開設

町民の安心・安全な生活を確保するため、平成13年5月に「ふれあい診療所」を開設し、町民の長年の願いであった365日24時間の医師常駐と救急搬送体制を整備し、安定した医療体制を確立しました。



##### ○ 子ども世代に対する医療の充実

若者世代が子どもを育てやすい環境づくりの一環として、医療費等の自己負担額の軽減措置を早い時期から導入し、子育て世帯の負担を少しでも軽減させるため、尽力しました。

- ① 子どもインフルエンザ予防接種の無料化
- ② 中学校卒業まで子ども医療費の無料化

#### 5. 福祉・介護に関する功績

##### ○ 福祉施設の誘致

急速に進む高齢化に対応するため、岡山県内の社会福祉法人に対し、施設整備を粘り強く働き続けた結果、誘致に成功し、高齢者の介護サービスの拡充・強化が図られました。

- ① 平成15年4月特別養護老人ホーム「レファシード直島」を誘致・開設
- ② 平成21年5月小規模多機能型居宅介護「直島げんき」を誘致・開設

##### ○ 地域福祉の充実

地域福祉の中核の担い手として様々な事業を展開し、地域住民、民生・児童委員、社会福祉事業者等の関係機関と協働して、住民の誰もが安心して生き生きと暮らすことができる地域福祉の充実に尽力しました。

- ① 直島町社会福祉協議会会長に就任（平成11年7月から平成19年9月まで）

## 6. 生活環境に関する功績

### ○ 上水道施設の整備・強化

#### ① 海底送水管の整備

町民の安定的な飲料水の確保のために、岡山県玉野市からの海底送水管は極めて重要なライフラインであるが、施設の老朽化に対処する必要があるため、香川・岡山両県や国と粘り強く協議を重ね、平成20年11月に玉野―直島第3海底送水管を完成させました。



#### ② 島内施設の耐震化

老朽化した島内水道施設の耐震化などを順次行い、町民の飲料水の安定供給に尽力しました。

- (1) 平成24年3月に鶴石受水場を更新
- (2) 平成25年3月に風戸山配水池を更新
- (3) 平成26年3月に高区・低区配水池等を更新

### ○ 下水道施設の整備

#### ① 下水道施設の整備

平成12年2月浄化センター（汚泥処理施設）を整備

#### ② し尿受入施設の整備

平成21年4月し尿受入施設を整備

### ○ 廃棄物処理施設の整備

#### ① 廃棄物処理施設の整備

豊島廃棄物等処理事業の終了を見据え、廃棄物処理計画を見直し、新たな処理体制の構築を図りました。このことにより、町民のクリーンな生活環境の確保が図られることとなり、環境負荷の低減にも大いに貢献しました。

- (1) 平成25年12月廃棄物処理施設管理棟及びストックヤード等

## 7. 通信に関する功績

### ○ 情報伝達手段の整備

#### ① オフトーク通信サービスの導入

平成13年2月に電話回線を利用した「オフトーク通信」サービスを開始し、即時性のある情報伝達手段を整備しました。

#### ② タブレット端末を活用した行政情報通信サービスの導入

近年の通信環境の情勢変化を察知し、オフトーク通信システムの次世代として、音声情報だけでなく文字や画像も表示できるタブレット型端末を活用した行政情報通信サービス事業への転換を決定しました。



### ○ 通信環境の整備

#### ① ADSL回線の導入

民間通信会社に粘り強く働きかけた結果、離島という地理的特殊性にもかかわらず、平成15年8月から本島にADSL回線の供用開始に成功しました。

#### ② 光回線の導入

平成26年1月には光回線の供用開始へと導き、本島全域においてブロードバンド化が図られたことにより、都市との情報通信格差を解消し、町民の生活向上や企業の経済活動に大いに貢献しました。



## 8. 住宅環境に関する功績

### ○ 住宅の整備

慢性的な住宅不足を解消し、住民の定住化を促進する事業を進め、人口減少対策を講じました。

#### ① 県営住宅直島団地の誘致

香川県と協議を重ね、平成14年9月に県営住宅直島団地24戸を誘致

#### ② 町営住宅（単身向け）の整備

(1) 平成21年3月に単身者用町営住宅「マリンパール直島」10戸を整備

(2) 平成26年3月に単身者用町営住宅「マリンパール横防」8戸を整備

#### ③ 町営住宅（家族向け）の整備

(1) 平成21年6月に家族用町営住宅「つつじヶ丘団地」4戸を整備

(2) 平成27年3月に家族用町営住宅「横防家族用住宅」2戸を整備

### ○ 町並みの景観保全

古い集落の一つである「本村地区」の景観保全に早い段階から取り組み、町の主要な観光資源の一つとして大きく育成させました。

#### ① 平成14年4月に「直島町まちづくり景観条例」を制定

民間企業が展開するアート活動とリンクする景観保全活動に尽力

#### ② 「屋号プロジェクト」の展開

地域住民の間で古くから広く親しまれている「屋号」を活用したプロジェクト

